

まっすぐとびますように

本日で、令和7年度前期が終了します。前期には様々な出来事がありました。今月の初めに実施した体育祭は記憶に新しいところです。学校行事では、修学旅行や赤城宿泊学習も行われました。学校総合体育大会や新人戦、各種コンクールなど、部活動やクラブなどでの活躍は目を見張るものがありました。そして何よりも、授業をはじめとした日々の学校生活…とても充実していたように思います。富士見中学校で創立以来受け継がれている「文武両道」の精神で、皆さんは多くのことに挑戦し、多くのことを学んできました。

さて、ここでは9月に東京で開催された世界陸上にまつわるお話をします。世界中の200の国や地域から、2000人を超えるアスリートが世界一を目指し、自己ベスト更新を目指し、競い合った大会でした。本校の陸上部の2人の顧問の先生も、それぞれ国立競技場を訪れ、観戦したそうです。超人的な力で走る・跳ぶ・投げる選手を目の当たりにした体験は大変貴重だったことと思います。競技場全体が盛り上がり、特に日本人選手が登場したときの地鳴りのような歓声には圧倒されたそうです。そして、その大声援を受けて、全力を尽くす選手たちの様子から応援の力を感じたとお話ししてくれました。

今大会で、女子やり投げに出場した北口榛花選手も大声援を受けた選手の一人です。前回の世界陸上やパリ五輪で金メダルを獲得した北口選手にかかる期待は大きいものがあります。大会前のイベントなどでも注目されていました。大会の約2ヶ月前に代表選手の記者会見が行われている場面を私はテレビでみていました。ちょうど7月7日の七夕の日だったので、選手たちが綴った短冊も紹介されました。北口選手の短冊には「やりがまっすぐとびますように」と書かれていました。ご本人が紹介するときには「初心者のようなことと思われるかもしれませんが、これが私の一番の願いです」とお話になったのです。世界のトップアスリートでも、いやそうではなく、世界のトップアスリートだからこそ、基本中の基本を大切にすると学ばせていただきました。

残念ながら、今大会は、自己ベストに7m及ばない記録での予選敗退でした。今年6月に右ひじを痛めてしまい、コンディションは万全ではなかったそうです。それでも、自国開催の大会出場に向けて最善の努力をしてきたのだと思います。北口選手のことですから、この悔しさを糧に、次の大会では、すばらしい活躍をみせてくれるにちがいありません。

改めて、皆さんに考えてもらいたいです。今、皆さんが取り組んでいること（それは勉強でも部活でも習い事などのことでも、何でもかまいません）の「基本中の基本」は何ですか。皆さんは、どんなことを「基本中の基本」として心に置き、努力していくのでしょうか。この機会に考えてもらいたいです。

明日からは3日間の秋休みです。気持ちを新たに後期のスタートを迎えましょう。令和7年度前期終業式の式辞は以上です。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣